

# 生活文化体験、交流を柱にした生きがいくりの機会・場の創造モデル

～体験し、学んだ、埋もれかけていた知恵や技を発信～

## モデル開発のねらいと概要、成果

### モデル開発ねらい

- ・このモデルでは、農山漁村地域の、生業に関わるものや、生活文化（暮らしぶり、食、民俗等）に関わる知恵や技術、経験などが活かされることで、お年寄りの生きがいくりがなされる機会や場を創造することをねらいとした。
- ・また、その過程で、お年寄り自身が、生きがいくりの機会・場の運営の主人公として活躍することを目指した。



### モデル開発の概要

- ・農山漁村地域の探訪に興味を持つ、都市部の有志グループが、共に探訪を楽しむ機会を定期的に開催（計4回の集い）。
- ・集いは、一つの集落を中心に訪問を繰り返すスタイルで行った。ここでは、出会ったお年寄りから地域の歴史、生業の経験、生活文化にまつわる知恵や技術に関する話しなどを聞きいたり、お宅の造りや生業、暮らしの道具を見せてもらったりした。
- ・集いを重ねる中で、教えてもらった生業や生活文化に関わる知恵や技術、それを体現するモノ（道具や建物、製品等）をまとめた媒体（毎回の訪問の記録をスケッチブックに綴じた留め置き用の媒体、集落内外の方に自由に持ち帰ってもらえるチラシ）を作製していった。
- ・また、それらの媒体を集落の施設に置き、集落内外の人々が活用できるようにした。

### モデル開発の成果

- ・次のような機会を通して、探訪の機会（集い）に交流してくれたお年寄りが生きがいを獲得していた。
  - ・地域の今昔を伝えたり、生業や生活文化にまつわる知識や技術、それらを体現するモノなどを伝えること
  - ・自分たちが大切にしてきたもの、伝えたものが、媒体としてまとめられること
  - ・自分たちが大切にしてきたもの、伝えたものがまとめられた媒体が、訪問客や集落の人々などに読まれることで

- ・次のように、生活文化体験、交流の機会の担い手として活躍するようになり、そのことを通して、より大きな生きがいが獲得され始めた。
  - ・体験する生活文化の内容を、事前に考え、誰が伝え役になるのか、どのように伝えるのかなど企画とコーディネートを行ってくれるようになった。
  - ・年中行事への参加の調整（自治組織、祭祀組織との調整）など、交流の企画とコーディネートを行ってくれるようになった。
  - ・媒体の内容や紹介文へのアドバイス等、媒体作製に参加してくれるようになった。
  - ・媒体の設置場所の開設、集落内での周知などを行ってくれるようになった。

## 展開モデル（3つのステップの内容、仕掛け、お年寄りの変化）

### ステップ1：楽しみ方の模索と確立

#### ・このステップの内容

このステップでは、まず、有志グループを発足。どんな地域で、どんな風を楽しむのか、具体的な探訪先や楽しみ方を（仮）決定する（基本的には、お茶のみを兼ねたミーティングやドライブを兼ねた候補地の探訪などを通して行う）。



## ステップ2：交流の輪づくり

### ・このステップの内容

このステップでは、上記ステップ1で決定した地域に出向き、地域の歴史や自然、風土、食文化などの魅力の発見を中心とした探訪を楽しむ。その中で、無理のない形で、例えば、発見した風景や建物等の由来を尋ねるなど、地域住民との交流を始める。

### ・お年寄りの生きがい獲得、主体性発揮を促す仕掛け

例えば、有志グループに地域の歴史、生業の経験、生活文化にまつわる知恵や技術に関する話し教えることの喜び、楽しさがお年寄りの生きがいの獲得を後押しする。また、そうしたことを通して、お年寄り自身の自らの経験や知恵、技に対する誇りを再獲得（価値の再認識）することでも生きがい獲得されていく。このように、交流すること自体が、お年寄りの生きがい獲得の仕掛けとなる。そのためには、例えば、メモ帳を用意し、お年寄りの話を記録したり、許可を得て写真を撮ったりするなど、ポーズではなく、教えてもらっていく事柄が有志グループにとって本当に価値のあるものであることを自然に表す態度、行為が有効となる。

また、お名前や住所を聞いておき、次回の探訪の際に、撮った写真等を届けることで、その方が、探訪先のキーマンとなってくれる可能性も出てくる。写真等を届ける中で、さらに、その地域の自然や歴史、文化を楽しめるポイントやそのことに詳しい人を紹介してくれることもある。こうした紹介をたどりながら有志グループが楽しむ様子を見ることで、受け入れ先のキーマンとしての主体性を発揮してくれるようになることも十分に考えられる。

### ・期待されるお年寄りの変化（生きがいの獲得・主体性の発揮）

自らの知識や経験が活かされる（喜ばれる）ことを通しての生きがいの獲得。事前に、地域の歴史や自然などを味わえるポイントや人をコーディネートしてくれるなど、受け入れ先のキーマンとしての主体性を発揮。

## ステップ3：成果の発信・還元

### ・このステップの内容

このステップでは、上記ステップ2と同様の楽しみ方で集いを重ねながら、発見した地域の魅力をどのように訪問先の地域に還元するかを決める。そして、訪問先の住民が自らの暮らしの場やその歴史、風土のすばらしさを再発見したり、来訪者がその地域の魅力を発見しながら探訪を楽しみたいと思うような媒体を作製する。さらに、その媒体を発信、還元する（集落施設、地域の商店等への寄贈・そこでの配布、インターネットホームページの活用等）。

#### ・お年寄りの生きがい獲得、主体性発揮を促す仕掛け

自らの知識や経験、技術、暮らしてきた場の歴史、風土が、発信、還元されること自体、より大きな生きがいにつながる。また、そのことがより主体的な参加へとお年寄りを後押しする。このように媒体の作製そのものが、お年寄りの生きがい獲得、主体性発揮を促す仕掛けとなる。そのためにも、訪問の度に媒体を作成、充実させていくようにし、その作成過程に、交流してくれるお年寄りのアドバイスを十分に反映させることが有効となる。また、作製した媒体が活用されることで、より大きな生きがいや主体的な姿勢が生じてくるため、公共施設に限らず、商店など人々の集まる場所に置かしてもらうなど、活用を促進する取り組みが有効となる。

#### ・期待されるお年寄りの変化（生きがいの獲得・主体性の発揮）

自らの知識や経験等伝えた事柄が、交流の場を越えて、発信されることでより大きな生きがいを獲得。そのことが前提となり、積極的な交流がなされるだけでなく、探訪の際の有志グループに紹介する場所や人の選定、調整等交流の場の運営や媒体作製、配布等の担い手としての主体性の獲得も期待される。

「生活文化体験、交流を柱にした生きがいづくりの機会・場の創造」モデル  
1年間の標準的な展開イメージ

